

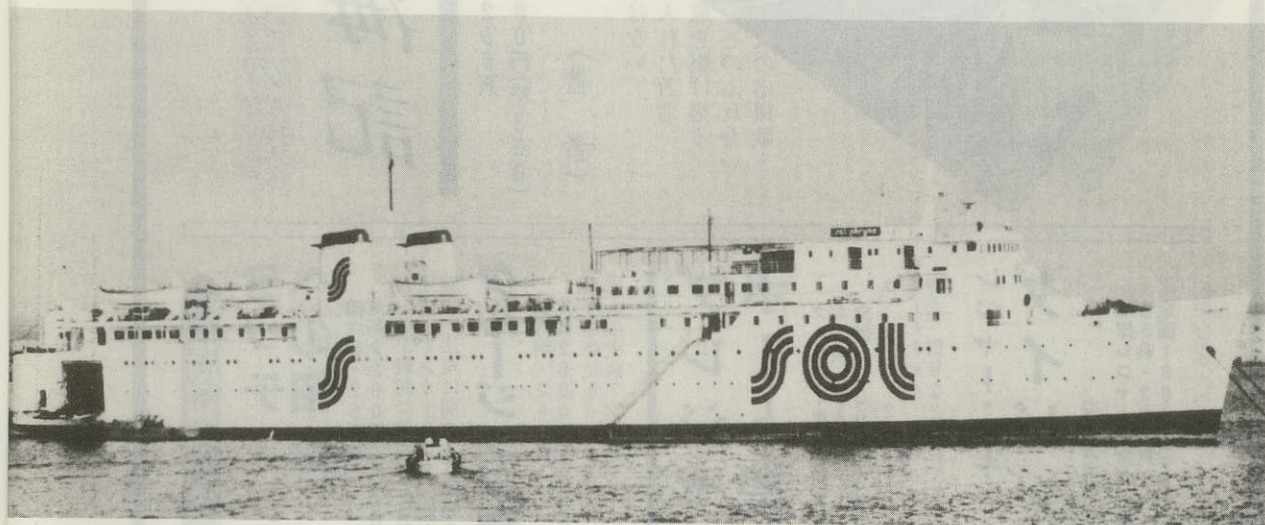
初代「大雪丸」のちの

ソル・フリーン

《主要目》カーフェリー、ソル・ライン社運航(キプロス船籍)

6,151総トン、主機ディーゼル2基、出力5,400馬力、
航海速力17ノット、旅客定員630人、1948年三菱重工
神戸造船所建造 —ソル・ライン当時の要目—

地中海で数奇な後半生をおくった 青函連絡船



青函連絡船のその後

三月のある日、はるか函館のNHK支局のディレクター氏から、取材電話がかかってきた。「青函連絡船のその後」というテレビ番組を企画しているので、売却された船ぶねの現状を教えてください、とのことだった。

青函連絡船が、青函トンネルの開通にともない、明治以来八十年の歴史にピリオドを打つてから、まる四年。引退し売却された八隻の連絡船は今、こんな状況に置かれている。

八甲田丸▽青森で展示保存。

摩周丸▽函館で展示保存。

羊蹄丸▽ジェノバの国際博覧会に日本館として展示。

十和田丸▽クルーズ客船「ジャパニーズ・ドリーム」としてデビューしたが、営業停止。佐世保に係船。

大雪丸▽洋上ホテルになる計画だったが、購入会社が倒産。

桧山丸▽研修クルーズ船「二十一世紀号」に变身したが、営業停止。

石狩丸
ギリシャ、ボセイドン・ラインのフェリー「ラシテイ」としてエーゲ海で活躍。

空知丸
▽キプロスに売却。地中海水域で貨物輸送に従事。

ご覧のように、連絡船ゆかりの青森、函館で余生をおくっている二隻以外は、散り散りになり、うち二隻は海外に売却された。

また、一足先に引退した「津軽丸」と「松前丸」も、海外（北朝鮮）に身売り。「津軽丸」はその後、パナマ船主の手に渡り「アル・ジヤワヘル」と改名、紅海でフェリーとして働いている。このように、青函OBの『第二の人生』は波乱含みである。

内戦のユーゴで爆沈した元「大雪丸」

だが、波乱万丈という点でいえば、彼女たちの先輩格の初代「大雪丸」ほど、数奇な後半生をおくった船はないであろう。

近着の英国ワールド・シップ・ソサエティ会誌『マリンニュース』の海難のページに、こんな記事が出ていた。

「ソル・フリーン号（六千五百一十一総ト、一九四八年建造、もと大雪丸）。カーフェリー。船主はギリシャのロイアルティ・シッピング社。ホンジュラス船籍。本船は九一年十二月六日、ビース島南の沖十五マイルで爆発し炎上、沈没した。ユーゴスラビア連邦軍のチャーターにより軍需物資を積載、プーラからバールへ向かう途中の事故だった」

事故の原因については特に記されていないが、積荷の軍需品の中には武器、弾薬、燃料

などが含まれていたから、それらが何らかの理由で爆発を起こしたものと思われる。人為的な爆発かどうかについても、「マリンニュース」は何も伝えていない。

ところで、この「ソル・フリーン」というカーフェリーについてだが、この船は、まことにキナ臭い船歴の持ち主なのである。

数年前の八八年二月には、PLO（パレスチナ解放機構）のチャーターで「パレスチナ帰還の船」として就航する直前、中東のキプロスで爆破されたこともある。

PLOが二度にわたりチャーター

パレスチナ人を入れてイスラエルに向かうというPLOの「帰還の船」の計画は、第二次大戦直後のユダヤ人移民船「エクソダス」をモデルに、祖国を持たぬパレスチナ人の現実を国際世論に訴えようとしたものだった。ユダヤ人移民船「エクソダス」については、アメリカ映画「栄光への脱出」に詳しく描かれているので、ご存じの方も多からう。

PLOは、イスラエルによって占領地から追放されたパレスチナ人百三十人と報道関係者など五百余人を「ソル・フリーン」に乗せて、キプロスからイスラエルへ向かう計画を立てた。ところが、キプロスに停泊中の「ソル・フリーン」の船内で突然爆発が起り、

燃料タンクなどが壊されて船体が傾いた。

これが八八年のことであるが、さらに、八二年には、この船はパレスチナ・ゲリラの撤退戦にも従事している。この年の八月、イスラエルのレバノン侵攻に伴うPLOのベイルート撤退の際に、パレスチナ・ゲリラの脱出船としてチャーターされている。中東にせよ、ユーゴにせよ、現代史の火薬庫のような地域である。彼女は、こうした物騒な水域で、物騒な仕事に従事してきたのである。

この船舶史上稀有のキナ臭い船歴の持ち主の前身が、青函連絡船の初代「大雪丸」であるということは、一般にはあまり知られていない。「大雪丸」は、第二次大戦後の青函航路復興の先駆けとなった「洞爺丸」型客載貨車渡船の第四船で、一九四八年に三菱重工神戸造船所で建造され、戦後の約二十年間、津軽海峡の女王として君臨した。

彼女の波乱の船歴については、筆者は青函連絡船が幕を閉じた一九八八年春、本誌（八八年一月号）に『青函連絡船の八〇年』というアーティクルを書き、その中でくわしく紹介しているので、ここでは省略する。

終焉時の船齢四十三年。海外に身売りの内航客船は数多いが、初代「大雪丸」のような数奇な後半生をおくった船は、ほかにはないだろう。